



月歩学歩



“月日を歩き、学んで歩く” 明德の「今」を伝える月刊誌「げっぽがっぽ」

多彩に集う

本学では9月末より後期の授業が始まりました。学校生活をより充実したものにしようとして行動している1年生の姿や、就職活動の時期を迎え、自分の保育観、ひいては自分自身を見つめ直している2年生の姿が多く見られます。

本号では、特集Ⅰとして、様々な人々がまさに「多彩に集った」学園祭の様子を、特集Ⅱとして、それぞれの現場で「多彩に活躍」している卒業生の声をお届けします。どちらの特集も、学生皆さんのこれからの道程の助けとなりますように。私たちはそう願っています。



特集Ⅰ 学園祭

(P.2-5)



特集Ⅱ それぞれの道を 歩む卒業生

「卒業生からのメッセージ」

(P.6-12)

教員からのおすすめ
(P.13)

!hot news!
今月の明德速報
(P.14-15)

特集Ⅰ 学園祭

夏休み前の8月2日（土）、明德での大きなイベントである学園祭を開催しました。このイベントを楽しんでいたのは学生ばかりではありません。近くは地域の親子連れから、遠くは富山県の利賀村、そしてスペインの方々まで、まさに地域や国を越えた多彩な人々が集いました。たくさんの笑顔が集まった学園祭当日や、それまでの準備の様子を、実行委員長を務めた学生の文章や写真と共にふりかえります。



学園祭をふりかえって

2年（学園祭実行委員長）：松田 勝也



今年のテーマは「前進」、この学園祭で新しく進んでいこうという目的で、学生内の中心である学友会と、呼びかけで集まったメンバーで5月から実行委員を作り進めていきました。

昨年の学園祭では、1年生（現2年生）は授業の一環として全員参加で学園祭を作り上げましたが、今回は1・2年生共に全員自由参加となり、30人弱の実行委員でした。さらに、ほとんどの人が、出店やステージ発表と作業を兼任しており、終始人手不足に悩まされました。そんな中、1年生へのアプローチとして、休み時間に昨年の学園祭の様子を伝え、参加を促し、専用の掲示板で宣伝も行ってきました。しかし、我々の力不足か、関心のない人が多かったのか、その後もなかなか人数が集まることはありませんでした。自由参加になった時に、人の興味を引きつける難しさを感じ、上手く伝えることができない自分に歯痒さを感じました。

●反省点

・主に人手不足による作業の遅れがあった。会計・広報等は数人で担当を分けることでの計算間違い防止や広報活動が進められた。

・1、2年生の連携の難しさ：2年生は6月に実習があり、その間に1年生ができることを伝えきれなかった。それ以前に、有志団体の決定がなされていなかったことが活動内容を決めかねる要因になっていた。早く決める必要があるが、1年生にとっては入学後2ヶ月という時期なので、決定は難しいのではないかという判断もあり、結果として7月からの1ヶ月間が実質の活動期間となった。

・情報共有の難しさ：せっかくの学園祭、創っていく側が楽しくできていたのだろうか。会議という形で机に座り、委員長や学友会が進める...何となく堅く、上下関係を感じる構図だった。去年ならまだこういった形もあったと思うが、全員が進んで参加したメンバーならば、平等に意見を出し合える場の雰囲気を作るべきだった。

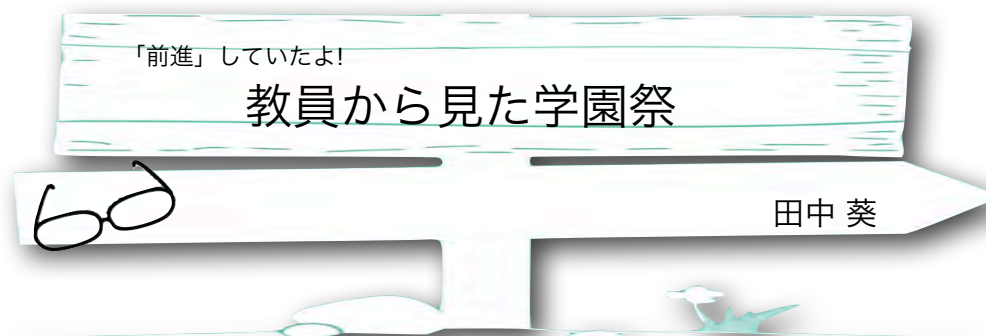
・保育の学校ならではの催しを取り入れることは難しかったのだろうか？ せっかく保育を学んでいるのならば、子どもも楽しむことができるものということを伝え、それぞれの団体も思案してくれていたが、難しい部分もあった。特に2年生は、これまでの学びの中から活かせることもあったのではないか。

・学生と施設の方の出店場所：休憩スペースやテントの向きの工夫によって、交流の場となることができていたか。

●次回に向けて... 1年生へ

今回の学園祭で実行委員長として参加しましたが、7月の1ヶ月間で動き回ってくれた係や有志団体の方々に助けられました。様々な問題がある中で、施設の方々、利賀村、スペインの方々と多方面に交流でき、何よりも子どもたちがイベントを楽しんでいる姿を見ることができたことに喜びを感じました。もし次回も学生の自由参加という形で学園祭を作っていくならば、その時の1年生を引き込む難しさを是非感じてほしい。そして今回広げることのできた交流の輪を引き継いでいってほしいです。

たくさんの場面で、参加された皆さん、先生方や事務の方々と、たくさんの方々に助けられながら、学園祭実行委員長を務めさせて頂き、ありがとうございます。



さて、上記の実行委員長のふりかえりでは、謙虚に、そしてより良い学園祭を目指すために厳しくふりかえっていますが、見ていた教員として、声を大にして言います。「そんなことないよ！それだけ（課題ばかり）ではなかったよ！」と。

私は学生生活支援として学園祭には数年携わってきていますが、特に今年の特徴として強く感じたことがありました。それは、2年生が昨年の学園祭での学びを今年に活かし、1年生につなげようという強い意識があったこと。参加した1年生はその思いを受け止めて動いていたこと。そしてだからこそ、企画・準備、学園祭当日、その後のふりかえりまで、自分たちで考えて動く、学生主体の学園祭だったということです。実行委員長を始め2年生の皆さんは昨年の反省を活かされたのかと、1年生の皆さんはもっとできたことがあったのではないかと、不完全燃焼なこともあるかもしれませんが、しかし、学生皆さんの取り組む姿勢は、そのテーマに相応しく、「前進」していたと思うのです。

まず、今年の2年生は2回目の学園祭ということで、昨年の経験を今年につなげようと、昨年の1年生まとめ長が今年の実行委員長に、装飾、販売、飲食、安全衛生、ステージ、広報・受付、会計の各係には、昨年と同じ係に立候補する多くの2年生の姿がありました。そして、参加した1年生はそのバトンをしっかり受け止め、真摯に取り組む姿がありました。その姿勢が、何よりもの大きな「前進」だと思うのです。各係の昨年の経験は、

確かに生き、前進していました。（私から見えた各係の前進。本当はもっとある）👉

学園祭当日を迎えるまで、実行委員の会議では、たくさんの白熱した議論が繰り返されていました。堅苦しい...と委員長は書いていましたが、それぞれが真剣に考えているからこそ起こった議論だったのではないのでしょうか。さらに、「どのような学園祭にしたいか」を、実行委員だけではなく、掲示板を通じての呼びかけ等、学校全体を巻き込む取り組みも度々行われたというこの過程が、大きな大きな前進です。今年は有志参加だったため、確かに授業で行った昨年よりも参加人数は少なく感じたかもしれません。それでもこの数年の中では、有志の実行委員でこれほどまでに人数が集まったことも、1年生がこれだけ積極的に学園祭に関わったことも初めてです。

当日は、親子連れの方々や地域の方々が多くいらっしゃっていました。また、普段からお世話になっている“父の樹園”や“ときわぎ工舎”、“みらい工房”の方々も今年もパンや小物の販売をして下さったことに加え、今年は2年生の選択科目である「わくわく体験研修」のつながりから、富山県利賀村の方々も地域の特産品の販売、スペインの音楽大学教授とその学生たちは演奏として参加して下さい、明德の輪がますます広がったことは、学校としても前進です。

昨年学園祭を授業として行っていた時のねらいは「保育や福祉の現場で働くための態度や行動（チームの一員として役割を持って動くこと）について体験を通して身につけていく」ということでした。今回は授業ではありませんでしたが、この学園祭に携わった1・2年生一人ひとりが、自分からチームの一員としての役割を探し、担っていたように見えました。皆さん自身はどうでしたか？ このような学校行事では、学年や学校を越えて多くの人たちと共に一つのを創りあげるわけですから、楽しさもありますが難しさもあります。しかし、このことはどのような現場（職場）でも、必ず生きる力です！

学園祭はまだ終わっておらず、来年度の学園祭につなげるために、学園祭を視覚的にふりかえられるアルバム作成、そして各係のふりかえりをこの2ヶ月自主的に行っています。課題を挙げるだけではなく、良かったことも次に生きるわけですから、良かったところもぜひふりかえって下さい。今回の皆さんの取り組む姿勢は、自信を持つべき素敵どころがたくさんありました。だから、ぜひ自分の良さも認めて、自信を持って自分の未来へつなげて下さい！

全ては書ききれませんが、例えば...
広報・受付：今年は例年以上に親子連れの方々の参加が見られました。これは、広報係が昨年の反省を活かし、7月上旬から地域のお店にポスターを配布するなどしていたからだと思います！

装飾：準備期間に限りがあるため、授業で創ってきた作品を使った飾り付けは、普段の授業が生き、明德らしさを表現していました！

販売：2年生からひきつがれたバトンをしっかりと1年生が受け取り、参加される施設を実際に訪れ、打合せでした。授業を休まなければいけなかったことは学校の課題。

安全衛生：昨年以上にきめ細かな計画的企画準備で、とても頼もしかったです！

ステージ・飲食：各団体のとりまとめ、大変だったと思います。早い段階から雨天時の案も立て、見通しを持っており、昨年の内容がしっかり生きていましたね！

貸出借用：きめ細かな作業が多く、連日遅くまで本当にお疲れさまでした！ 誠実な対応には私も自分の背を正しました。

委員長：昨年とは違い、今年は全てをまとめなければならず、その違いに戸惑い思い悩むこともあったかもしれませんが、日を追うごとに責任感ある逞しい姿になっていました！

特集II それぞれの道を歩む卒業生

「卒業生からのメッセージ」

2年生は就職活動の時期を迎えています。9月25日、学内にて近未来保育研究所主催の就職説明会を行いました。その中で、平成25年度に本学を卒業し、社会福祉法人 杏の会 杏保育園で働いている森美紗稀さん（2歳児担当）と岩見江里子さん（0歳児担当）を迎え、就職活動から現在に至るまでのお話をして頂きました。

そのお二人を含め、今年3月に卒業した就業1年目の先輩たちから、就職活動をこれから行う学生の皆さんへの声を集めました。

*近未来保育研究所とは、明日の保育のより一層の質の向上を目的として設立された団体です。



保育士になって 43回生：森 美紗稀（杏保育園）

私が今勤めている園は、私の保育実習IIの実習園でした。私は杏保育園での実習がそれまでの中で一番楽しく、実習している時から私も是非ここで働きたいと思っていました。杏保育園の先生方は私の実習録、指導案を丁寧に見て下さり、部分実習や責任実習では私の話を親身になって聞いて下さり、実習生であった私を支えて下さいました。

また、杏保育園の子どもたちは泣いたり、怒ったり、笑ったりと自分の気持ちや思いを素直に出せる子が多く、元気いっぱいの子どものことが本当に大好きになりました。他にも、杏保育園の周りには田んぼや畑など自然いっぱい、その環境も良く、私も働きたいと思いました。

そして、実習が終わりしばらくすると、園長先生から採用試験のお話を頂きとても嬉しかったです。しかし、迷いもありました。他の園の見学もしないでもう採用試験を受けていいのだろうか、杏保育園に就職したいけれど、もし採用試験に落ちてしまったらどうしようなど不安にもなって、自分に自信のない私は悩みました。考えて出た答えが「採用試験を受けよう」でした。園長先生は、私の実習を見て私の足りないところや良いところなどいろいろなところを知った上で私に採用試験のお話をして下さったこと、実習中に思った‘私もここで働きたい’という気持ちを信じて採用試験を決めました。

採用試験の内容は実技試験と面接試験でした。実技試験では「自分の得意なことを子どもたちの前で披露する」という内容だったので、私は何か作ったりすることが好きだったので手作りの紙芝居を作り、子どもたちの前で読みました。面接試験では、園長先生と理事長先生と3人でお話をしました。とても緊張しましたが自分に落ち着くようにと言い聞かせながら自分の言葉で自分の思いを伝えました。そして、採用試験から一週間後、短大に内定通知が届き、採用の知らせを聞いた時はとても嬉しく友だちと一緒に喜びました。



保育士になって半年が経ちました。私は保育士になることができ、本当に良かったと感じています。私のクラスの子どもたちは4月からの新入園児で、他の園から転園してきた子や初めて保育園に預けられた子たちです。入園当初はお父さん、お母さんと離れるのが寂しくて泣いてしまう子ばかりでした。そんな子どもたちは、半年経って大きく成長しました。朝の受け入れの時、「パパ～」 「ママ～」と大泣きしていた子が今では「お仕事がんばってね」と大きく手を振って見送れるようになったり、遊びの場面では友だち同士で「○○ちゃん一緒に遊ぼう！」と声を掛け合いごっこ遊びを楽しんだり、他にも、泣いている友だちがいるとその子のそばへ行って「大丈夫？」と友だちを思いやったりと心身ともに成長しました。また、子どもたちと毎日一緒に過ごすことで、昨日できなかったことが今日はできるようになったという子どもたちの小さな成長をそばで見守ることができて嬉しく感じるとともに、その小さな成長に自分が気付けるようになったことは私自身の一つの成長だと感じます。

杏保育園では天気の良い日は園庭で遊びます。学生の時は暑かったり寒かったりすると室内で過ごすことが多かったです。しかし、保育士になってからは毎日、園庭に出て子どもたちと元気よく体を動かして遊びます。季節の花を見たり、虫を見たり、その季節ならではの遊びや行事を楽しんだり、改めて四季を味わえています。また、子どもたちと体を動かして遊ぶことで私は体調を崩すことがなくなって自分自身の変化も感じています。

保育士は保育以外にも連絡帳、月案、週案、個人日誌、個人月案、お便り、掃除、保護者対応などたくさんの仕事があります。中でもやはり書き物の仕事は多く大変な時もあります。しかし、やりがいのある仕事です。何かあった時、相談に乗ってくれて指導してくれる頼りになる先輩方、一緒に協力し助け合いながら一年目を頑張っている同期、そして笑顔にしてくれる元気いっぱいの子どもたちがいるので、私は、これからも先輩方のような一人前の保育士になれるように毎日を全力で頑張っていきたいと思います。

学生の皆さんは、今、就職活動で大変な時期だと思います。私は就職活動をしないで決まりましたが私も採用試験を受けるまではたくさん悩みました。たくさん悩んで考えて、自分自身と向き合ってみてください。そこから何か見つかると思います。自分が本当に就職したいという場所が決まったら、その「ここで働きたい」という強い気持ちと自信を持って採用試験に臨んで下さい。「不採用だったらどうしよう…」という不安な気持ちもあると思いますが、作った自分ではない、素直な本当の自分の気持ちを相手に伝えて下さい。悩んで苦しくなった時は家族、友だち、先生に話して一人で抱え込まないで下さい。決して一人ではありません。支えてくれる人たちが周りにたくさんいます。応援しています。



保育士になって
43回生：岩見 江里子（杏保育園）



私は夏頃から就職活動を始めました。しかし、「自分はそもそも保育士になりたいのか」と考えていたので、幼稚園で働きたいのか、保育園で働きたいのか、はっきりとした目標がないまま就職先を探していました。なぜなら、自分のことを自分で決める・考えることにまったく自信がなく、その末、保育者を目指してきたはずが、保育者になりたいのか...という極限のところまで来てしまったからです。

こうした自分の自信の無さが原因だと思い、自信が持てず内気な自分を体育会系で元気な雰囲気自分に装っていくことで、本来の自分から遠ざかって行こうと考えました。その考えから、あえて自分には似合っていない保育を行っている幼稚園を探し見学に行きました。実際に見学をさせていただくと、まさに子どもたちを明るくリードしていく先生方が多く、日々さまざまな指導を取り入れていて活発な雰囲気の幼稚園だと感じました。私はこの見学を通して、「こうした環境の中で働くことができれば、今の自分から変わることができるのではないか」と考え、後日就職試験を受けさせて頂くことにしました。しかし、見学や面接試験の中で、私がどこか無理をしていることが伝わったのでしょうか、不採用となりました。この結果を聞き、残念に思う気持ちもありましたが、すぐに「思っていた通りだ」と納得でき、逆に採用されなくて良かったのだらうと思いました。なぜなら、自分に無理のある場所で、より良い保育はもちろん、のびのびと働くことはできなかつたらうと思ったからです。

私はこの経験から、しっかりと就職先の概要・求められる人材などを調べ、自分らしく働けるかを考える大切さを身をもって知りました。そして、挑戦するように就職を考えてしまった自分自身に深く反省をしました。

私はその後、ゼミの先生などとゆっくり話し合い、自分を見つめ直していく中で、保育士として働きたいと思うようになり、就職活動を再スタートしました。

その中で出会った保育園の一つが、現在働かせていただいている「杏保育園」でした。園長先生は見学を快く受け入れて下さるだけでなく、私の今までの就職活動をじっくり聞いて、ありのままの自分の気持ちを受け止めて下さりました。さらに、杏保育園で実習を行ってみ



て、自分らしく保育士をしていける場所なのか考えてみてはどうかと声を掛けて下さりました。私はこの有り難い機会を無駄にしないよう、さっそく実習をさせて頂きました。数日間ではありましたが、その中で、“子どもたちを大切に”先生方や明るく素直な子どもたちに出会い、次第に「ここで保育士として働きたい」「私もこんな保育士になりたい」と思うようになっていきました。私は、この偽りのない気持ちこそ何より大切なのだと感じ、迷わず採用試験を受けさせて頂き、この4月から0歳児担任として働かせて頂くことになりました。

しかし、いざ保育士という責任のある立場になってみると、望ましい子どもたちへの関わり方がわからず、月齢のことばかり気かけたり、テキストを見てその通りに接してしまったりしていました。しかし、日ごとに子どもたち一人ひとりの性格や個人差がわかってきて、子どもたち一人ひとりに合った関わり方・声の掛け方を考えられるようになっていきました。というものの、これでいいという答えは見つからず、試行錯誤を繰り返しているのが現実です。きっと望ましい関わり方を考える続けることが、子どもたちへの望ましい関わり方なのではないかと思いました。

また、保育士として子どもたちと向き合っていく中で最も嬉しく思ったことは、学生時代の実習でも体験できず、テキストを見てもしっくりとこなかった“信頼関係”というものを、子どもたちと一日また一日と過ごす中で、身をもって知ることができたこと、その嬉しさを実感できたことです。まだ0歳児クラスにお話できる子はいません。しかし、笑って泣いて怒って気持ちを伝えようとしてくれて、それを受け取れるようになってきて、言葉にはできないやり取りができるようになってきています。このように気持ちを投げかけてくれることは、「この人には安心できる」と思ってくれているからだと思うと、心の底から嬉しいです。このような嬉しさを感じながら、保育士として働くことができ幸せです。

ぜひ、皆さんも自分らしく働ける就職先を見つけるために、自分を見失わずに素直な気持ちを持つことを大切にしてもらいたいです。もし、自分を見失ってしまいそうになった時には、一人で抱え込まず、家族、明德の先生方、友人などに手を差し伸べてもらいヒントを得ましょう。そして、自分らしくあれる就職先を見つけていけるといいですね。応援しています。



43回生 (H26年卒：就業1年目) からの メッセージ

坂本 智悠さん：障害児入所施設勤務

①なぜその種別を選んだのか

施設実習を通して、障害児が可愛いと感じたからです。

②なぜその施設を選んだのか

正直、通勤できる範囲ではこの施設しかありませんでした。しかし、見学をさせて頂き、ここで働きたい、とこの施設を受験しました。

③働く上で楽しいと感じていることは何か

子どもがそれまでできなかったことができるようになった時や、子どもと遊んだり話をしたりしている時に楽しいと感じます。

④働く上で大変だと感じていることは何か

子どもと関わる以外の業務に追われ、自分のことで精一杯になってしまい、子どもたちにさみしい思いをさせてしまっているだろうと思う時です。

⑤就職活動をしている学生へのメッセージ

「早く決まりたいからここでいいや」というような決め方をしないほうがいいですよ！

大山 美さん：私立幼稚園勤務

①なぜその種別を選んだのか

入学してから2年次の幼稚園実習までは、保育園で働こうと思っていました。ピアノに自信がないからそのように思っていたのですが、幼稚園実習で部分実習や責任実習をさせて頂き、クラス運営の楽しさを感じました。実習をきっかけに幼稚園教諭を目指そうと決めました。

②なぜその園を選んだのか

「つくりんぼ」という造形活動を行っており、ものづくりや絵を描くことが好きな私は、それに惹かれて決めました。

③働く上で楽しいと感じていることは何か

子どもと日々過ごしていく中で、子どもにとって新しいモノやコトを提供すること。またそれを子どもが楽しんでいる笑顔が見られた時。

④働く上で大変だと感じていることは何か

たくさんあるけれど、個人個人の子どもの同じ視点で常に考えていくこと。「ちょうどいい」が一人ずつ違うので難しいです。

⑤就職活動をしている学生へのメッセージ

私は2月の後半に就職が決まりました。焦ったこともありましたが。

この仕事は子どもと遊んでいるだけでなく、自分のいいところを伸ばしたり、自分自身のことを考えさせられたりする一番の仕事だと就職してわかりました。体力は使うけど毎日充実していて楽しい仕事です！

自分に合った園を見つけて下さい。頑張ってください。

岡澤あすみさん：私立幼稚園勤務

①なぜその種別を選んだのか

悩んでいましたが、2年生になってからの実習をすべて終えてから決めたと思います。幼稚園実習が楽しかったし、保育園でも幼児とかかわっている時に楽しいと感じ、自分らしくいられたからです。

②なぜその園を選んだのか

先生の紹介で見学に行きました。実習した園とはかなり違う保育だけど、こんな幼稚園もあるんだと思い、すごくいいなと感じたので決めました。雰囲気も良かったです。

③働く上で楽しいと感じていることは何か

行事は子どもと一緒に楽しめるので楽しいです！ 準備は大変だけど、終わった後は頑張った良かったなあと思います。また、子どもが本当に可愛くて大好きで、一緒に過ごす時間はいつも楽しいです。毎日の保育の中の些細なことが嬉しかったりするので、ふとした瞬間にも「ああこの仕事楽しいな～」と思います。

④働く上で大変だと感じていることは何か

年長を受け持っており、行事やいろいろなことで園全体を引っ張っていかなければならないのですが、初めてのことだらけなので先が見えなくて大変です。

一斉に活動することがほとんどない中でも、行事に向けて進めていきたいこともたくさんあります。それを、どうすれば子どもたちが自分からやりたいと思ってくれるかを考えるのが大変です。興味を持ってもらえるように私自身が楽しんでみせています。

その他、週一回のクラスだよりも時間がかかってしまうこと、自由保育の中でもいろいろな保育観を持つ先生方と話し合うことなどがあります。

⑤就職活動をしている学生へのメッセージ

時間がかかっても自分が本当にいいなと感じられるところに就職できるように、見学はたくさん行ったほうがいいと思いました。

また、就職したらあまり友だちや先生と会えないかもしれないので、今、学生である時間も楽しんでほしいです！



R・Wさん：私立幼稚園勤務

①就職に至るまでの迷い、悩み、葛藤、決断

私は実習に行く度に自信をなくし、自分はこの職業に向いてないと嫌でも実感させられていましたので、最後の幼稚園実習を終えるまでは、なぜ、この道に進んだのかわからなくなりました。しかし、最後の幼稚園実習は私にとって保育者とはなにか、をととても考えさせられ保育の奥の深さ、素晴らしさを目の当たりにし、そこで私は保育者になりたいと強く思いました。

②種別や園など、就職先を決めた訳

もともと幼稚園出身で、将来は幼稚園教諭になりたいと思っていたため。もうひとつは自分の理想の保育をしている園と出会ったため。

③今のやりがい、今後の目標

日々、子どもたちと接しながら子どものちょっとした変化に気づくことができたり、喜怒哀楽をともにできたりすること！ まだまだ未熟な私を「先生」と呼んで、「幼稚園大好き」と言ってくれること！ 当たり前なのがとても愛おしく感じます！

今後の目標は常に子どもの心に寄り添いつつ、子どもの1番の理解者になることと、一人前の教師になること！

④就職活動をしている学生へのメッセージ

今は1番自分と向き合いながら悩んだりする時期だと思います。自分の選ぼうとしている道は本当に正しいのか。でも、**今真剣に自分と向き合わなければ後悔する**と思います。だから、**とことん自分と向き合ってください**。また、卒業まであと半年ですが本当にあっという間です。「今」を大切に過ごしつつ、頑張ってください！

PROFILE

教員名

ふかや
深谷 ベルタ



担当科目

児童文化・あそび
基礎演習・保育方
法演習等

メッセージ

子どもを知る方法もいろいろある。具体的に子どもを知りたいければ、個々の子どもに直接関わるのがベスト。でも、それだけで全てが済むわけではない。保育者を何年かで辞める予定で学ぶのであれば、本を読まなくてもひどく困ることもないかも知れないけれど、一生の仕事(ライフワーク、そして専門家というエキスパート)を目指すなら、ゼヒゼヒ、その手の専門家が書いた著書!

教員からのおすすめ

本学図書館には、各教員の専門分野や関心が一目瞭然の「推薦図書コーナー」があります。この連載では、その一端のみならず、教員から皆さんへの「おすすめ!」を紹介していきます。

今回は、深谷先生からの皆さんへのおすすめです。

「ことばと思考」著) 今井むつみ

各教員による「お勧めコーナー」、読書離れしたジェネレーションだと認識しつつも、子どもを理解する上でも役に立つから、読んでみたらどうかしらと、今井むつみ著『ことばと思考』(岩波新書 2010年)をお勧めしたい。(学生だけに、ではなく。)

大分昔に聞いた話だが、日本の知の巨匠と呼ばれる一人である立花隆さんの名言を聞いて、なるほど確かにその通りだと思った。それは、「いい本とは、他に6冊の本を読みたい気にさせる本のこと」。知識を深めるための本は、一冊で話の全体を把握するのは難しい。一つのことを少しだけ掴みたいとすれば、6冊は現実的な値に見える。読書家として知られる立花さんは、知れば知るほど面白い方なので、それだけではおつまみにしか感じないだろうが。

私が今回お勧めしたい本もその手の専門家の著書だ。今井むつみさんという認知言語学のエキスパートが書いた新書版で、子どもに関わるあらゆる職業の人に向けて、言葉を操るといふことは何をする事なのかということ、それこそ高校生にも分かるような優しい言葉で説明してくれる。話に保育者も登場するというお楽しみもある。読んでみると、あなたが膝を打つ姿を想像するのは私の楽しみ。彼女の本を読んだら、おそらく他の著書も読みたくなるのでは、と思う。説明する時の言葉が明解で、専門家ではない読者に配慮してくれる研究者こそ本物だとよく言われるが、その通りだろう。今井さんが気鋭の研究者だからこそ、学問の立場から言えるコトと言えないコトとの判別がつく。そのようなエキスパートの知がちゃんと“しつけられている”ので、話の信憑性が高い。ということは、子どもがどのようにして言葉を覚えて行くのか、言葉を覚えてしまった後の子どもの何がどう変わるのか、知りたければ読むべき本はこう言ったエキスパートの本だ。どんなに優れた論者ではあっても、保育を研究する人というのは、言葉そのもののエキスパートではないので...読んでもいいが、時間を無駄にしまったと思ったら、著者を責めないでね。



! hot news !

new movements of this month in meitoku
! 今月の明德速報 !

8月21, 22, 23, 25, 26日に「**教員免許状更新講習**」を開講しました。この講習について、担当した金瑛珠先生からご報告を頂きました。

また、8月30日に行われた「**明德土気保育園の夏祭り**」に学生含め教員もボランティアとして参加した様子、そして10月8日に行われた「**わくわく体験研修報告会**」をhot newsとしてお届けします。



短大では、幼稚園や短大が夏休み期間中である8月に、幼稚園教諭免許状保有者を対象として、「**教員免許状更新講習**」を行っています。教員免許状は、取得した後、10年ごとに更新講習を受けることが必要となっているためです。

例年、多くの卒業生や、実習でお世話になっている現場の先生方が、本学の更新講習に申し込みをし、受講して下さっています。

更新講習を担当しているため、木・金・土/月・火と連日、受講される方々にお会いしていると、「最初は苦だったけど...」、「長い時間、座って学ぶことは苦痛だと思っていたけど...」と多くの方がおっしゃいますが、最終日には、「楽しかった」「もっと通いたい」と言って下さり、とても嬉しく感じます。そして、学生が実習生としてお世話になっている園に伺った際、先生方にまたお会いでき、お話が出来るので、楽しい出会いとなっています。

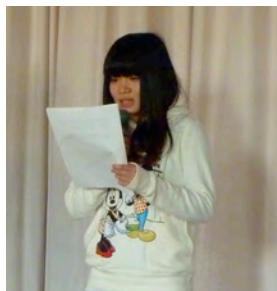
更新講習が終わった翌週、学生の実習の挨拶に、ある園に行きました。その際、更新講習で保育者が体験した遊びを子どもたちとするために、ペットボトルキャップを集める張り紙が園舎入口にあり、写真が飾られていました。とても嬉しくなる瞬間でした。

更新講習について、学生の皆さんには改めて説明をすることになりますが、免許資格を取得し、仕事をし始めても、勉強し続けることが求められる仕事に就くことになる、ということは意識しておくとも良いかも知れません。そして、その時には、是非、母校に戻ってきて下さい!

8月30日（土）に開催された**明德土気保育園夏祭り**に、学生も教員もボランティアで参加しました！ 地域の方々がこの夏祭りを楽しみにしていることが伝わる、熱気と活気のある夏祭りでした。参加した1年生の皆さん、来年度の学園祭のお手本になりましたね！



10月8日（水）、2年生の選択科目である**フィールドワーク**（通称「わくわく体験研修」：この名称は、過去の先輩たちが“わくわくする体験だから”と自然にこのように呼ばれるようになったそうです）の**報告会**を行いました。この体験で得た思いをどのように伝えるか、報告会を前に、連日試行錯誤している2年生の姿が見られました。また、今年3月に卒業後、研修生となった宮田菜さんから研修生制度の紹介もありました。「わくわく体験研修」については、10・11月合併号で特集を組みます。今回は2年生の皆さんの興奮と熱気が伝わる報告でした。月歩学歩ではさらに熟成された報告が上がることと思います。お楽しみに！



!MEITOKU SNAP OF GAKUEN-SAI!



17:00 全体片付け
 17:30 高校テント片付け
 全員参加
 ↑ 片付けの順番短大行先
 18:00 まてにダスキン の団体
 は回収
 確認後学校備品返却
 19:30 全体終了!! (目標)
 21:00 深夜祭

明徳の10月

1日～ (毎週月・水・金)

・ 特例講座

11日 (土)

・ 入試面談

・ 公開授業

18日 (土)

・ 第46回スターボックスお話しライブ

・ 保護者会・特別相談会

25日 (土)

・ あそび実践演習

・ 入試面談

・ 公開授業

・ 野育を推進する会
 (附属幼稚園)



編集後記

先月末に予定されていた本号の発行が大幅に遅れましたことを、まずはお詫び申し上げます。8・9月は、教員も学生も慌ただしい中であっという間に過ぎていきました。2か月に満たない期間ですが、学園祭で幕を開け、保育実習やボランティア、そしてわくわく体験研修など、それぞれに充実した日々を過ごしていた学生も多かったようです。現在、本学では既に後期の授業が始まっています。1年生は11月の部分実習や1月の保育実習に向けて、そして2年生は就職に向けて、それぞれの学びを深めていく時期です。悩みも多く、壁に突き当たることもあります。しかし、それらを乗り越えた先には「子どもと共にある喜び」があるということが、本号に寄せられた卒業生たちの声からは伝わってきました。彼女たちの生き生きとした「今」が、学生たちの「未来」と重なってくれることを願ってやみません。本号は「多彩に集う」というテーマでお届けいたしました。が、学生たちは、学年や短大の中だけでなく地域や国さえも超えてつながった方々の力も借りながら、前進を続けています。こうしたご縁を大切にしながら、私たち教員も日々の学びを大切にしていきたいと思っております。(高森)

★INFORMATION★

明徳HPの「めいたんブログ」でも、明徳の「今」を日々発信しています。ぜひご覧下さい。

<http://chibameitoku.blog53.fc2.com>

発行：千葉明徳短期大学

千葉市中央区南生実町1412

Tel :043-265-1613

Fax:043-265-1627

mail:tandai@chibameitoku.ac.jp

URL:<http://www.chibameitoku.ac.jp/tandai.html>

編集

田中 葵

伊藤 恵里子

高森 智子



読者の皆様へ：『月歩学歩』に対するご意見、ご感想を郵便やメールにてお寄せ下さい。